

令和6年度 第1回 横須賀市文化財専門審議会

議 事 録（抄録）

日 時 令和6年（2024年）7月12日（金）

場 所 横須賀市役所 302 委員会室

参加者 文化財専門審議会委員 〈敬称略〉

委員長 平田大二 : 地質 神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員

委員 相澤正彦 : 絵画 成城大学名誉教授

剣持輝久 : 考古・郷土史 赤星直忠博士文化財資料館館長

正垣孝晴 : 地盤工学・土木史 元防衛大学校教授

瀬谷貴之 : 彫刻 神奈川県立金沢文庫主任学芸員

西川武臣 : 古文書・歴史資料 横浜開港資料館館長

水沼淑子 : 建造物 関東学院大学名誉教授

安室知 : 民俗 神奈川大学国際日本学部歴史民俗学科教授

（欠席）勝山輝男 : 植物 神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員

（欠席）矢島國雄 : 考古 明治大学名誉教授

事務局 古谷久乃 : 教育委員会教育総務部長

杉山賢一、川本真由美、佐藤佑吏（横須賀市教育委員会教育総務部生涯学習課）

内容 〈敬称略〉

1. 開会

- ・ 辞令交付、教育委員会挨拶、委員紹介、事務局紹介
- ・ 委員長及び委員長職務代理者の選出

2. 議事 議事進行（平田委員長）

（1）令和6年度 指定重要文化財候補の選定について

- ・ 事務局から令和6年度指定候補文化財一覧の加筆修正箇所について説明
- ・ 指定候補文化財について

事務局：令和 6 年度指定候補文化財等一覧について説明

- ・建造物 No. 13 市営覚栄寺裏山貯水池の備考欄の文言削除

→リスト記載時は上下水道局から国登録の希望があったが、現在はその意思がないと確認したため

- ・絵画 No. 4 板着色不動明王図額

→令和 5 年度 市の指定文化財となったのでリストから削除

- ・史跡 No. 8 猿島

→所有者の訂正

- ・民俗文化財(有形) No. 11 東浦賀の猩々坊

安室：「東浦賀の猩々坊」として指定を考えていたが、対象をより明確にするため、「厄除人形 猩々坊」としたい。明治 33 年に途絶えたものが平成 7 年に復活、その後 30 年以上経過した。そろそろ指定をと考えていたところコロナでまた途絶え、出来れば一刻も早く有形民俗として指定をしたい。

委員長：よろしいでしょうか。他にご意見・ご質問ございましたら挙手をお願いします。

水沼：個人所有だが、近代の旧竹田宮邸はどのような状況か。湘南地区に残る宮家別邸として極めて貴重なものの 1 つである。市史に報告がある。個人所有のため、指定は難しいとは思いますが、一度実見出来る機会があれば、ありがたい。登録文化財にもなっておらず、災害時の場合も想定し、市も価値を承知しているということか。

委員長：候補リストに掲載はしないが、確認を要するということか。

水沼：候補に挙げても、もちろん遜色ない戦前期のものだが、取り扱いは難しいことを承知している。候補に挙げても指定に至らないものが多くて、どのようにこのリストを増やしていくか悩ましいが、旧竹田宮邸は全く問題ないと思っている。

事務局：文化財係として、直接アポイントを取ったことはない。市史編纂のときに調査履歴がある。市史編纂室の後継である郷土資料室に確認して、現状などをご報告させていただく。

委員長：指定候補一覧に関しては、様々なレベルのものがあり、審議の場で後々利用するかどうかという所まで含めて、議論できれば望ましい。

（２）指定のための詳細調査対象文化財の選択

剣持：一昨年、現地視察を行った高坂貝塚を挙げたい。その後、教育委員会職員と一緒に昨年、ボーリング調査を行い貝層が存在することを確認した。出来ることならば、予算の関係もあると思うが、追加調査として、テストピット、例えば 50 cm 四方貝層を掘り下げる、またはトレンチといって細い溝を掘って貝層の広がりを確認するなど、ボーリング調査では分からない部分の発掘が出来るとよい。また、高坂貝塚は学校の用地のため学校教育に活用することが期待できる。

委員長：事務局としてはどうか。

事務局：学校との調整、それから教育委員会内での調整をさせていただきたい。

安室：先ほども申し上げた東浦賀の猩々坊だが、今年度コロナが明けても復活してこないということで危惧している。95 年ぶりに復活して平成 7 年に復活したものが、また再度中止になっている。今後、復活しない可能性も推測され、無形の民俗としての指定よりも有形としての指定を考えたい。先日、猩々坊が描かれているということで、地元の方が所有している祭礼絵巻の調査を事務局と行った。併せて、今年度調査を行い有形文化財としての指定準備をさせていただき、来年には指定に持っていきたい。東浦賀のような僧形の猩々坊は珍しく、また恐らく組立てると 3 m 近くあり、顔の大きさだけで 95 cm もあるものは日本全体でみても最大級である。非常に重たく組み立てるのも大変だが、出来れば組みあがった姿を詳細調査で皆様にご覧頂きたいので、来年度以降の再復活を地元には促していきたい。事務局には引き続き調査に協力を願いたい。

相澤：絵画の候補が 3 点挙がっている。5 ページにあり、真宗の絵画である。まだ、写真ぐらいしか見ていないのだが、これは十分、市の指定にはなるものだと思う。浄土真宗自体の寺院が県内少ないということ、古い中世に遡る絵画を持っている寺院も県内数か所しかない。これは非常に貴重なものである。

事務局：補足させて頂く。現在、この絵画は中央図書館の中に所属する郷土資料室で寄託させて頂いている。状態については、一度見ていただけると有難い。

相澤：1 番の「聖徳太子絵伝」だが現物を見て、別の聖徳太子の決まった名称があるので、検討したほうが良いと思う。

西川：浦賀奉行所に関して、文献関係は事務局で把握しているか。今後、浦賀奉行所について関心が深まっていくだろう。3～40 年前に浦賀の郷土史グループが資料集を何冊も刊行しているものなどもあると思う。

事務局：文献については把握しておらず、所在など確認してご報告をする。

正垣：建造物の候補の備考欄にある「日本遺産」について。文化財として法的な扱いや管理の現状などについて聞きたい。

事務局：日本遺産については、文化庁の認定ではあるが、ひとつひとつの単体については構成文化財というものであり、法的に守る守らないではなく、周知・活用を趣旨とする。特に東京オリンピックの際に、日本の魅力を発信するということでスタートした事業であり、旧海軍の横須賀、呉、佐世保、舞鶴で「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できる街～」として認定されているものである。今回指定候補に挙がっている建造物については、日本遺産の構成文化財となっているものがあるが、周知はまだ足りていないと思われる。

正垣：浦賀ドックについては、文化財としての指定は考えないでしょうか。

事務局：浦賀ドックについては、住友重機械工業から寄贈頂いて市の所有となっている。今後の活用については検討中である。教育委員会では、文化財の調査を行い、報告書を刊行したいと考えている。

正垣：何回かドックの下にも降りたが、レンガも含めて損傷が進んでいる。早めに進めてほしい。

詳細調査対象として高坂貝塚が決定。

名称：高坂貝塚、調査員：矢島、剣持

次回、第2回では、最宝寺絵画、浦賀奉行所関連資料の視察を調整する。高坂貝塚は昨年見ているので、今回視察は行わない。

3. 報告

1. 向井将監正方夫妻墓碑の移設について

委員長：場所を動かすことに問題はないですか。

事務局：宅地造成時に発掘調査を行い、甕棺が出土した。調査後、造成に伴い移設を行った。

委員長：後世に向井将監正方夫妻墓碑を移設したという公的な記録は残るのか。

事務局：市の指定重要文化財なので、現状変更申請の記録は永年保存で残る。

2. 走水水源地 煉瓦造貯水池への落書き事故について

水沼：現地にプレートの掲示はしていたのか。

事務局：なかった。

水沼：重要性を周知することは大事

4. 文化財関連行事

剣持：円通寺跡と浦賀奉行所の発掘調査についてどのような内容か
→事務局より報告

瀬谷：円通寺跡は、仏像のほうが漠然と 13 世紀といわれていたのが 1220 年代まで絞れているので、発掘のほうもその辺を考慮していただきたい。